

# 文学遺跡・ヨーロッパと日本 竹下 数馬

北極まわりの飛行機でヨーロッパに行く場合、まず到着するのがデンマークのコペンハーゲンであります。コペンハーゲンの名所といえはデンマークの生んだ童話作家アンデルセンの作品にちなむ「人魚の像」The Little Mermaid であります。港の波打ちぎわに建っている美しい人魚（上半身は女性）を見ているといかにも童話の国に來たような感じにひたるのであります。コペンハーゲンのローゼンボルク城の一隅、王公園には椅子に腰をかけ右手に本を持って今にも誰かに話しかけそうにしている彼の像が建っています。また、生れ故郷オデンセには彼の記念館があり、そこにも等身大の立像が建っているのであります。これらの銅像はいかにも堂々としていて偉大な文学者を記念するのにふさわしいものと思われました。このごろ、はやりの人間像という言葉もこれらの銅像を見てよく分るような気がいたしました。ふりかえってわが国の文学者の場合はいかがでありましょ

うか。例えば童話作家としてアンデルセンに比べられる宮沢賢治のことを考えてみましょう。賢治の詩や歌を刻んだ文学碑は郷里の岩手県花巻市をはじめ各地に十指に余るほど建っていますけれども、いわゆる人間像は一つもないのであります。かりに賢治の人間像を建てるとしたらどんなものが出来るでしょう。どうもそんなものが出来る気づかいもありませんね。第一、賢治自身が草葉のかけ顔を真赤にしてそっぽを向くでありましょ。うし、賢治文学の愛好者たちも一人として賛成する人はいないであります。しかし賢治の詩碑を建てたいという動きはまだまだあつとを断たないのであります。

人間像を建立することには反対するが（少なくとも抵抗を感じるが）文学碑の建立には賛成する——これが日本人の大部分の心理であります。わが国では文学や文学者というものを多少のはにかみの感じなしには考えることが出来ないからであります。政治

家や軍人のように大勢の前で胸をはって歩くことが出来ないというところに文学者の生き方があると考えているのであります。

ロンドン郊外のストラスフォードには有名なシェークスピアの家 Shakespeare's House があります。この町の中心地近くに建っている古風な田舎家ですが、ここにもシェークスピアの等身大よりやや大きな像が建っているのであります。高さ五メートルぐらいの石の丸い台の上に建っているこの人間像はさすがに文豪の貫録を示すものであります。その像はわれわれを見おろし威圧を与えているようにさえ思われるのであります。なお、アヴェン川のほとりには記念劇場 Shakespeare Memorial Theatre がありシェークスピアの戯曲が上演されているというところであります。これがなどは文豪の遺徳を顕彰するのにまことにふさわしくわだてだと思われま

す。シェークスピアと並び称せられるゲーテの

出身地は西ドイツのフランクフルトであり、  
す。彼の生家は今なおゲーテの家 Goethe-Haus  
として当時の面影を残しているのであり  
ます。ゲーテの遺品や書斎など文豪をしのぶ  
にふさわしいものであります。これらはいず  
れもどっしりとした落着きを持っていて彼の  
作品のような重厚さを感じさせるのでありま  
す。

スイスの美しくさきについてはすでに人々に  
よって言いふるされて来ています。レマン湖  
畔のジュネーブにはジャン・ジャック・ルソ  
ーや宗教改革者カルヴィンの像が建っていま  
す。このような革新的な思想の持主が出るの  
は空気も水も透明なスイスの風土と無関係で  
はないと思われるのであります。

スイスから南のイタリアに來ると豊かな太  
陽光線はヨーロッパのどの国とも違って見え  
るのであります。ゲーテやハイネをはじめ多  
くの詩人たちが「君よ知るや南の国」といつ  
て歌ったのも、なるほどとうなずかれるので  
あります。ローマで最も大きな公園をボルゲ  
ーゼ公園と言います。ここにはヴィクトル・  
ユーゴーの銅像とゲーテの文学碑とが建って  
います。ユーゴーもゲーテもローマをしぼし  
ば訪れているようであります。ユーゴーの像

は等身大の立像でありとくに目だつ存存では  
ありません。ゲーテのそれはきわめて風変わり  
なもので土台石の四隅には「ファウスト」に  
ちなんで、ファウストと悪魔メフィストフェ  
レス、ファウストと少女グレートヘンの物語  
りを人間像によって具象的に表現しているの  
であります。つまりファウストの戯曲を四つ  
の場面で示そうとしているのであります。そ  
うして人間ファウストの魂の遍歴、悩みと救  
いの問題をこのような文学碑によって取扱お  
うとしているのであります。このような物語  
性を持った文学碑は他には見られないのであ  
ります。そうして四隅の物語風の土台石の上  
に颯爽としたゲーテ自身の立像がすえられて  
いるのであります。人間の悩みや弱さを克服  
した魂の英雄としてのゲーテの風格をしのば  
せるに十分なものであります。

さて、ヨーロッパの文学碑が主として人間  
像であるのに対してわが国それは歌碑であ  
り句碑であり詩碑であります。わが国には人  
間像を刻んだ文学碑はほとんどなく、多くは  
石（それも大部分は自然石）にひそかに詩や  
歌を刻んだものなのであります。自然石に刻  
む文字にしても草書体のものが喜ばれるので  
あります。例えば芭蕉の

#### 古池や蛙とびこむ水の音

の句碑は五基以上ありますがそのすべてが自  
然石であり草書で書かれたものであります。

西行にしても芭蕉にしても良寛にしても一  
茶にしても広く国民大衆に親しまれて来た詩  
人たちであります。彼らの銅像はほとんど  
建てられていないのであります。彼らの小  
さな木像はそれぞれ祠にまつられてはいます  
が、めったに人々の前に顔を見せようとはしませ  
ん。明治以後の文学者、例えば森鷗外、国木  
田独歩、石川啄木、小泉八雲、高山樗牛、土  
井晩翠、若山牧水等には像がありますがそれ  
らの大部分は胸像であり、ヨーロッパの文学  
者の銅像には北すべくもありません。明治以  
後の文学碑の多くは、やはり詩碑であり歌碑  
であり句碑であります。しかも大部分は自然  
石に草書で書かれたものか、それに近いもの  
であります。

ヨーロッパの文学は、あくまで人間が中心  
であり、自然は人間に従属すべきもの、克服  
せらるべきものという考え方が基礎になつて  
いると思われるのであります。ヨーロッパの  
文学遺跡に文学者の人間像が好んで建てられ  
ているのはこの理由によるものではあります  
まいか。